

都市構造の現状と課題

平成28年8月10日
第1回 持続可能な都市づくり懇談会 資料
新潟市 都市計画課

都市構造の現状と課題

都市の課題

人口減少
超高齢化

市街地の
低密度化

生活圏の
維持確保

都市構造の要素

変遷

歴史 ・ 地形 ・ 産業

商圈

交通

居住

ライフスタイルの変容を
踏まえた都市構造へ最適化

かつては

いまは

将来は

目指す
もの

多核連携型の都市構造

都市構造の変遷

歴史

- ◆近世中期(1730年頃)以降、水田開発とともに**在郷町**が成立
- ◆**舟運の要所**が生活・生業の中心に
- ◆明治元年(1869年)に新潟を**開港**
- ◆**近代的な都市**へ変貌を遂げる時代へ



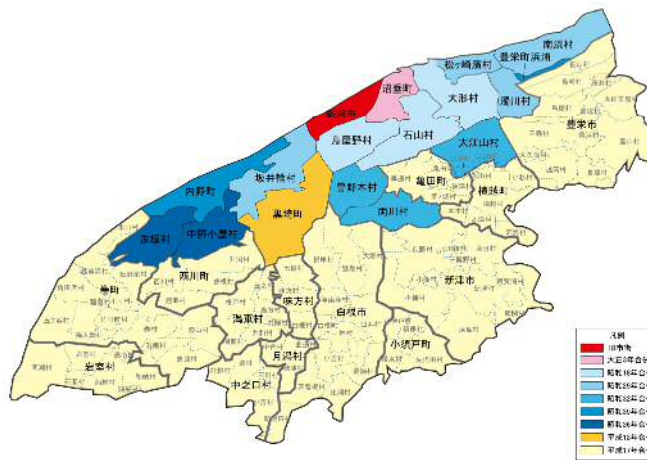
- ◆大正初期(1910年頃)以降、**鉄道**や**幹線道路**が整備され舟運は衰退
- ◆鉄道駅周辺に**まちなか**が形成
- ◆人口増加の受皿として**市街地**が拡大
- ◆移動手段が**マイカー**へシフト

ライフスタイルの遷り変り

地形



- ◆**信濃川**と**阿賀野川**が日本海へ流れ込む越後平野のほぼ中央に位置
- ◆河川の流域には低湿な**平野**と数多くの**潟湖**があり海岸沿いに**砂丘**が形成
- ◆市域の大半は**標高が低く**起伏はない
- ◆**合併**の積重ねにより広がった現在の市域には数多くの**農村集落**が点在



田園に包まれた生活圏

産業

- ◆全国有数の**大農業都市**として発展
- ◆政令市中**食料自給率**が最も高い

耕地面積(田)	28,500ha 全国1位(H26)
農業産出額	655億円 全国3位(H18)
米産出額	371億円 全国1位(H18)
認定農業者数	3,122人 全国1位(H26)

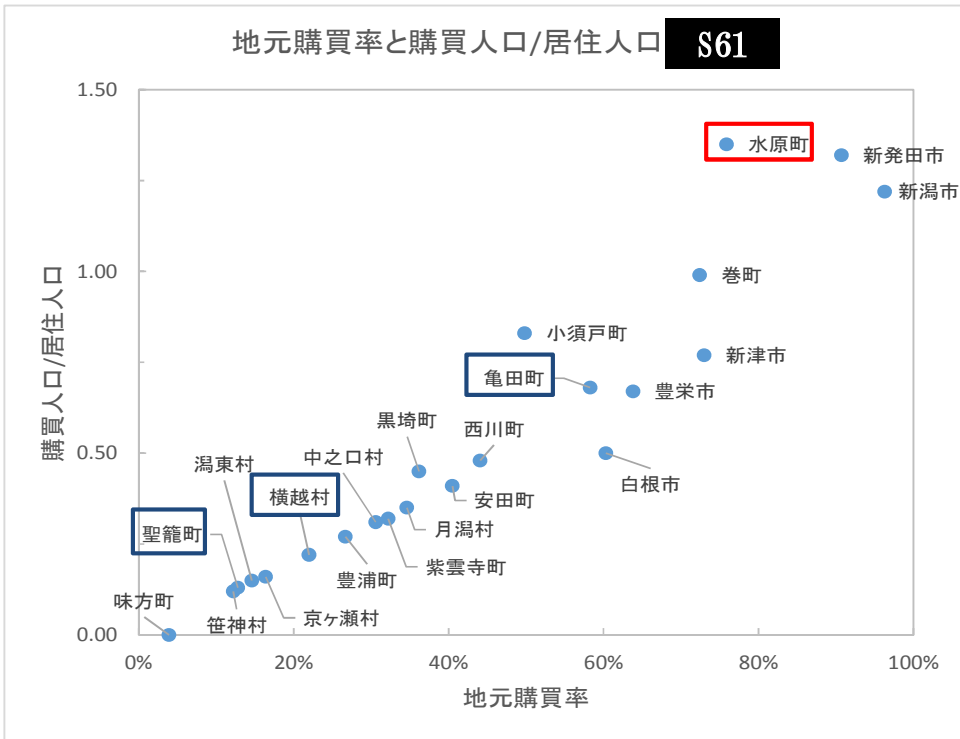
- ◆生産、加工・開発、販売を一体的に支援する**ニューフードバレー**を展開
- ◆食料品製造業、化学工業、紙関連製造業などで高い**製造品出荷額**を誇る
- ◆市内の**卸売業**や**小売業**については、年間商品販売額、従業者数とも減少傾向が続いている
- ◆航空機産業など成長産業の**企業立地**の促進や**農業特区**制度の活用により魅力的な**雇用**の創出に取り組んでいる
- ◆国際港湾**新潟港**を活用した輸出促進・販路拡大を図っている

農業を軸とした産業構造

商 圏

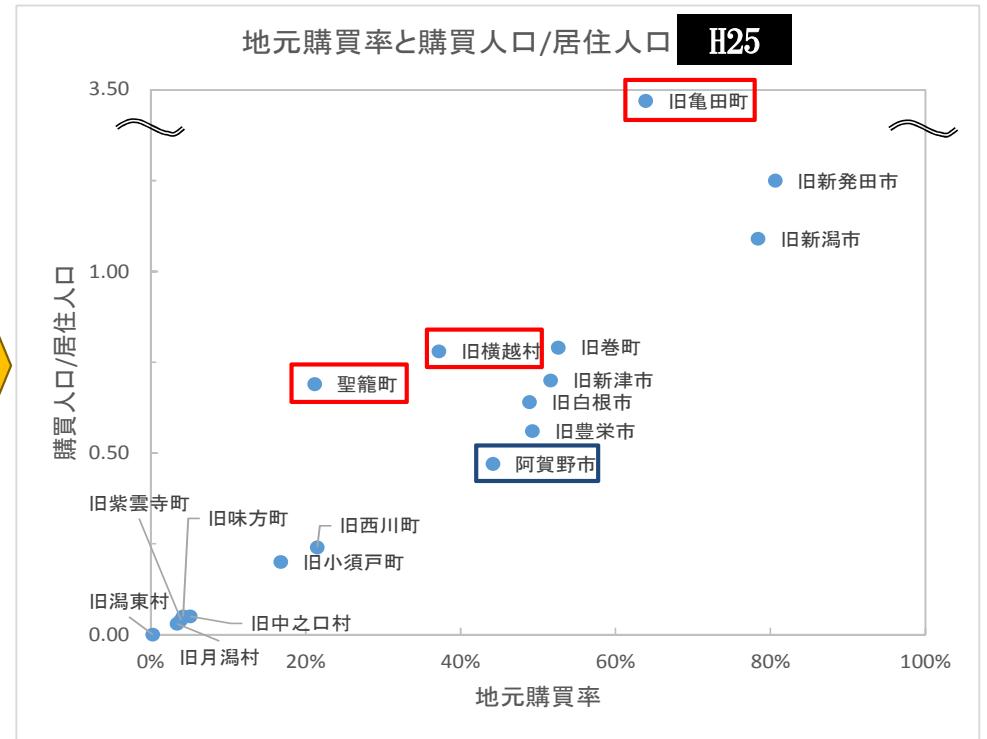
■ かつては...

- 買回り品(非日用品)は都心に集中
- 山形県南部方面や福島県会津方面からの来街者も多数



■ いまは...

- 郊外(各区)に大型SCができ、買回り品(非日用品)や最寄品(日用品)が購入できる商圈が形成。地域の商店街に活気がなく、歩いて行ける範囲に最寄品(日用品)を買えるお店がない地域が増加。
- 通信販売が消費者に浸透



■ 将来は...

- 市内の小売店舗面積 H19 → H24 **約15%減**
- 市内の年間小売販売額 H27 → H52 **345億円減**
(人口密度から推計)
- 人口減少と超高齢化が進展すれば、商圈を維持することが困難

都市構造の課題

まちの活力を維持

暮らしやすさの向上

交通

■ かつては...

- 上越新幹線開通前は、東京往復の日帰りは不可
- バス路線が都心から放射状に拡散していた
- マイカー利用率・保有率が上昇
- 通勤は周辺市町村から新潟へ集中傾向
- 新潟交通電鉄が白根方面に向け運行していた

■ いまは...

- 北陸新幹線の開通により上越新幹線の枝線化が懸念
- 新バスシステム導入で都心軸上のバス路線が集約化
- マイカー利用率はほぼ横ばいで高い
- 新潟駅連続立体交差事業で周辺道路改良が進む
- 地域では区バス・住民バスを運行
- 自転車専用レーン導入、歩道拡幅等が進捗
- 中央環状道路の整備が進む
- 高速バスを活用したP&Rが促進

■ 将来は...

- 新潟駅の高架化を契機としたターミナル機能の強化
- 高速道路（日本海国土軸）との連携
- 空港や港などのインフラを最大限に活用
- 周辺地域間・都市へのアクセス改善



- 生活を支える交通の拡充
- 歩いて暮らせるまちに向けた基盤の充実
- 新幹線駅の終着とさせない交通体系の構築
- まちの賑わいづくりにつながる交通網の形成

都市構造の課題

移動の快適さ

暮らしやすさの向上

田園と都市の共生

まちの活力を維持



居 住

■ かつては...

- 都心中心部は、商業と居住が一体で人口密度も高かった
- 人口・世帯の増加とともに、郊外部に住宅団地が増加
- 農村部からも都心周辺に新居を構える若者世帯が増加
- 県北、県央等からの転入も進んだ

都市構造の課題

暮らしやすさの向上

田園と都市の共生

移動の快適さ

都市経営コスト改善

■ 将来は...

- 公共交通の利便性の高い軸沿いでの住宅供給が促進
- まちなかでは、魅力ある居住空間(町屋形式)が創出
- 新たな就業場所の整備などとあわせた農村定住ニーズに対応した空き家再生が展開
- 住宅の老朽化著しいエリアにおける戸建ニーズに対応した空き家再生が民間事業により活発化
- 子育てや高齢福祉に関連する施設配置と相まった土地利用誘導を図ることで、偏りのない人口構成が居住することになる → 多様な世代の居住によるコミュニティ形成に寄与

■ いまは...

- 都心中心部は、商業機能に特化した状態で人口密度は減少傾向
- 賃貸・分譲のマンションニーズも高まり、駅南や万代、信濃川沿いなどに高層マンション建設が加速
- 都心中心部では建築の更新も進展(マンション化)
- 都心中心部の古い住宅を建替えをせずに郊外への移住者が増加
- 農村部では、空き家が急増
- UIJターン者などに農村への居住意向が高まる

出生率が高い地区の増減

25~44歳人口密度増減

江南区(亀田地区)

